

---

# SGI 1450 サーバクイックスタートガイド

このマニュアルは、SGI 1450 サーバの開梱から起動に至るまでの基本的なシステムのセットアップ情報について記載したものです。本書では、以下のセクションについて説明します。

- サーバの開梱と検査
- 必要なスペースの確認
- 設置場所の選択
- 必要な電源コードの確認
- モニタ、キーボード、マウスの接続
- 本体の前面にあるコントロールとインジケータの使い方
- ビデオモニタとサーバの電源の入れ方
- 電源投入時の自己テストの実行
- ブートデバイスの優先順位の一時的な変更

システムをラックに取り付ける方法については、『SGI 1450 サーバ設置手順』を参照してください（10ヶ国語で利用できるSGI 1450サーバのマニュアルについては、『SGI 1450サーバドキュメントCD』を参照してください）。

その他の設定情報やユーザが交換できるコンポーネントのインストールなどの詳細情報については、『SGI 1450サーバユーザズガイド』を参照してください。

World Wide Web (WWW) を使ってSGIドキュメントを入手するには、  
URL : <http://techpubs.sgi.com>を開いてSGI Technical Publications Libraryを参照してください。必要な情報やマニュアルを見つけるには、キーワードを入力するか、タイトルによる検索を行ってください。



**警告：**サーバを開梱するときにはけがをしないように、補助器具を使ってサーバを持ち上げて荷台から外してください。サーバの最小構成時の重量は26 kg (57 lbs) であり、最大構成時の重量は40 kg (88 lbs) です。電源装置上のハンドルを使ってサーバを持ち上げたり、移動しないようにしてください。サーバの移動には、台車などの補助器具を使用してください。

---

## サーバの開梱と検査

梱包箱からサーバを取り出し、付属品がすべて揃っているかどうかを確認します。梱包箱を検査して、運送中に不手際がなかったかどうかを調べます。梱包箱が損傷している場合は、参考のためにその写真を撮っておきます。中身を取り出した後で、損傷している梱包箱と梱包材を保管しておきます。

サーバと付属品に損傷がないかどうかを検査します。中身が損傷しているようであれば、ただちに運送会社に損害賠償を請求します。

## 必要なスペースの確認

SGI 1450 サーバは、標準の 19 インチラック（ラックモード）または直立型（ペDESTALモード）のどちらかで取り付けられるように設計されています。

SGI 1450 サーバの取り付け方については、『SGI 1450 サーバ設置手順』を参照してください。

SGI 1450 サーバシステムのスペース要件は、以下の表に示すとおりです。

表 1 SGI 1450 サーバの物理的仕様

仕様	ラックモード
高さ	4u (7 インチ)
幅	17.5 インチのラック
奥行き	26.5 インチ
重量	57 lbs. (26 kg)、最小構成時 88 lbs. (40 kg)、最大構成時
前部に必要な隙間	3 インチ (入り口の空気温度 < 35 °C / 95 °F)
後部に必要な隙間	6 インチ (考慮すべき空気流の規制がないとき)
側面に必要な隙間	1 インチ

## 設置場所の選択

このサーバは、通常のオフィス環境内では確実に動作します。以下の条件を満たすサイトを選択してください。

- 次のような正しく接地されたアース付き3ピン壁面コンセントに近いこと
  - 米国およびカナダ：100～120 VのNEMA 5～15Rコンセントと200～240 VのNEMA 6～15Rコンセント。
  - その他の地域：各国の電気関係の機関や規約に従って正しく接地されたアース付きコンセント。
- 清潔でほこりが比較的小さいこと。
- 換気が良く、熱源から離れていて、サーバの通気孔をふさぐ障害物がないこと。
- 振動や物理的な衝撃を受けにくいこと。
- エレベータ、コピー機、空調装置、大型の通風機、大型の電動機、ラジオやテレビの発信装置、高周波のセキュリティ装置などの電気装置によって発生する強い電界や回線ノイズから絶縁されていること。
- サーバの電源コードを電源ユニットや壁面コンセントから外せるだけのスペースが用意されていること。AC電源をサーバから外すには、この方法しかありません。
- 冷却や通風に必要なスペースが用意されていること。



**注意：**激しい雷雨の被害を受けやすい地域では、システムをサージ抑制装置にプラグ接続し、激しい雷雨の間はモデムとの通信回線を切断するようにしてください。

## 必要な電源コードの確認



**警告：**付属の AC 電源コードを改造しないでください。付属の AC 電源コードが、このサーバをインストールして使用する地域で必要とされる型でない場合は、それを使用しないでください。そのコードを適切な型のコードと交換してください。下記のコード要件を参照してください。内部パーツ（ボード、DIMM、リムーバブルメディアドライブ）を追加している場合は、サーバの電源コードを差し込まないでください。



**注意：**この製品の電源には、ユーザが自分で修理できるようなパーツはありません。この製品には電源が 2 つ以上用意されている場合があります。修理を受けるときは、資格のあるサポート要員だけに依頼するようにしてください。システム上にある DC 電源のオン/オフボタンを使って、システムの AC 電源を切ることはできません。システムの AC 電源を切るには、各 AC 電源コードを壁面コンセントまたは電源ユニットから抜く必要があります。

電源コードは、次の要件を満たしている必要があります。

- **定格：**コードの定格は利用できる AC 電圧に対して決められており、サーバの電流定格の少なくとも 125% の電流定格を備えている必要があります。
- **コネクタ、壁面コンセント側：**コードは、ユーザの地域で使用するよう設計されたアース付きのオス型プラグで終端させる必要があります。また、コードにはその地域の容認機関の認証を示す認証マークが付いている必要があります。
- **コネクタ、サーバ側：**サーバの AC コンセントにプラグ接続されるコネクタは、IEC 320、シート C13 のメス型コネクタである必要があります。
- **コードの長さ柔軟性：**コードは、長さが 4.5 メートル（14.76 フィート）未満であり、サーバの安全認証に準拠するよう柔軟性がある（整合が取れている）か、VDE に合格している必要があります。

## モニタ、キーボード、マウスの接続

モニタ、キーボード、マウスなどの外付け装置をそれぞれ該当するポートに接続します。



**注意：**外付け装置を接続する前に、サーバがプラグ接続されていないことを確認します。プラグ接続されていると、装置が故障する可能性があります。

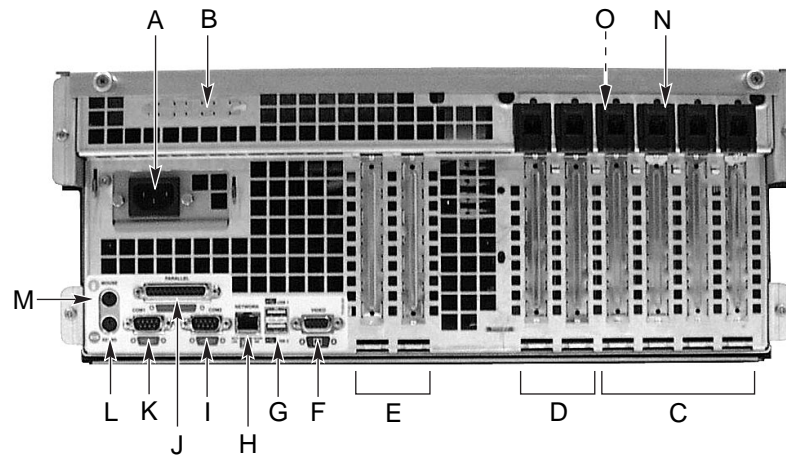


図1 背面パネルのI/Oポートと各部の名称

図1に、背面パネルのI/Oポートと各部の名称を示します。名称は以下のとおりです。

- A. AC入力電源コネクタ
  - B. オプション外部SCSIコネクタポート
  - C. ホットプラグ付き64ビット、33 MHzのPCIアドインボードスロット
  - D. ホットプラグ付き64ビット、66/33 MHzのPCIアドインボードスロット
  - E. ホットプラグなしの32ビット、33 MHzのPCIアドインボードスロット
- これらのスロットには、オプションのICMB (Intelligent Chassis Management Bus) SEMCONN 6ピンコネクタイン/アウトのポート1も接続することができます
- F. ビデオコネクタ
  - G. USBポート0 (上部) とUSBポート1 (下部)、4ピンコネクタ

- H. NIC RJ45 コネクタ
- I. シリアルポート 2 (COM1)、9ピン RS-232 コネクタ
- J. IEEE 1284 準拠の 25ピン双方向パラレルコネクタ
- K. シリアルポート 1 (COM1)、9ピン RS-232 コネクタ
- L. PS/2 対応のキーボードコネクタ
- M. PS/2 対応のマウスコネクタ
- N. HW プッシュボタン
- O. 本体の内側にある緑色と黄色の PCI LED

## 本体の前面にあるコントロールとインジケータの使い方

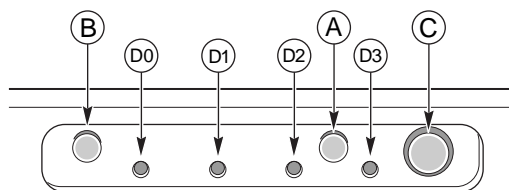


図 2 フロントパネルのコントロールとインジケータ

図 2 に、以下で説明するフロントパネルのコントロールとインジケータを示します。

**A. 電源オン/オフボタン**：システムがオフのときにこのボタンを押すと、電源サブシステムがオンになります。システムが休止状態のときにこのボタンを押すと、システムがアクティブになります。このボタンを 5 秒以上押し続けると、ACPI モードが無効になり、電源がオフになります。

**B. リセットボタン**：このボタンを押すと、システムがリセットされます。このボタンを 4 秒以上押しながら電源ボタンを押し、次にリセットボタンと電源ボタンの両方を 1 秒以内に放すと、CMOS がクリアされます。

**C. 休止ボタン**：オペレーティングシステムが ACPI をサポートしているときにこのボタンを押すと、オペレーティングシステムが休止状態 (S1) になります。休止状態のときにこのボタンを押すと、オペレーティングシステムがアクティブになります。このシステムにサービスモードはありません。

#### D. フロントパネルのLED（左から右の順）。

D0. 一般的なシステム障害LED：黄色はシステム障害を示します。

D1. NIC 動作LED：緑色はNICが動作中であることを示します。

D2. HDD 動作 LED：緑色はシステムのハードディスクドライブが動作中であることを示します。

D3. 主電源LED：緑色はサーバのDC電源があることを示します。緑色で点滅すると、システムがACPI休止モードになっていることを示します。

## ビデオモニタとサーバの電源の入れ方

1. モニタ、キーボード、マウスなどの外付け装置がすべて接続されていることを確認します。
2. 装置保護カードがある場合は、それをディスクドライブから外します。
3. ビデオモニタの電源を入れます。
4. サーバのAC電源コードのメス側の端を本体の裏側にある入力コンセントに差し込みます。
5. サーバのAC電源コードのオス側の端を壁面コンセントに差し込みます。アース付き3ピンAC電源コンセントを選択します。コンセントについては、65ページの「設置場所の選択」を参照してください。

---

**メモ：**AC電源コードを壁面コンセントに差し込むと、サーバの電源が入り、自動的に起動される場合があります。この場合は、フロントパネルの電源オン/オフボタンを押す必要はありません。

---

6. ACコンセントに差し込んでもサーバの電源が入らない場合は、フロントパネルの電源オン/オフボタンを押します（68ページの図2参照）。
7. フロントパネルの主電源LEDが点灯していることを確認します（68ページの図2参照）。数分後に電源投入時の自己テスト（POST）が開始されます。

## 電源投入時の自己テストの実行

システムに電源を投入するたびに、**BIOS**によって電源投入時の自己テスト（**POST**）が実行されます。**POST**では、プロセッサ、メモリ、キーボードやインストールされている周辺装置のほとんどを検出して、その設定やテストを行います。メモリのテストに要する時間は、インストールされているメモリの容量によって変わります。**POST**は、フラッシュメモリに格納されます。

1. ビデオモニタとシステムの電源を入れます。数秒後に**POST**が実行され、スプラッシュ画面が表示されます。
2. スプラッシュ画面が表示されている間に、次のどちらかの操作を行います：
  - **F2**を押して、**BIOS**セットアップ画面を表示します。

あるいは

- **Esc**を押して、このブート専用のブートデバイスの優先順位を変更します。71 ページの「ブートデバイスの優先順位の一時的な変更」を参照してください。
3. **POST**の実行時に**F2**または**Esc**を押した後で、**Ctrl+A**を押して**SCSISelect**ユーティリティを実行できます。
  4. **F2**も**Esc**も押されず、オペレーティングシステムがロードされているデバイスもない場合は、ブートプロセスが続行され、システムのピープ音が1度鳴り、次のメッセージが表示されます。

Operating System not found

5. この時点で、いずれかのキーを押すと、システムの再起動が試みられます。システムは、ブートの優先順位によって定義された順に、リムーバブルデバイスをすべて検索します。
6. オペレーティングシステムがロードされているハードディスクドライブからブートする場合は、そのハードディスクドライブがインストールされていることを確認し、フロントパネルのリセットボタンを押します（68 ページの図 2 参照）。

---

**メモ**：SGI 1450 サーバは、フロッピーディスクドライブが最初のブートデバイスをして設定された状態で出荷されます。このため、サーバは**CD-ROM**に**CD**が入っているかどうかに関係なく、**CD-ROM**ではなくフロッピーディスクからブートを試みます。**CD-ROM**をこのブート専用の最初のブートデバイスとして設定する場合は、**Esc**を押します。**CD-ROM**を永続的に最初のブートデバイスとして設定する場合は、**F2**を押し、**BIOS**セットアップでブートデバイスの優先順位を変更します。

---

7. **POST**が完了すると、システムのピープ音が1度鳴ります。オペレーティングシステムがロードされた場合は、そのオペレーティングシステムがサーバシステムの管理を行います。

## ブートデバイスの優先順位の一時的な変更

POSTの実行時に、現在のブートプロセスのブートデバイスの優先順位を変更できます。以下に示す変更内容は、次のブートプロセスまで保持されません。

1. サーバをブートします。CDがドライブに入っている必要があります。
2. POSTが実行されている間に、**Esc**を押します。POSTが完了すると、[Boot] ポップアップメニューが表示されます。
3. 矢印キーを使って、サーバシステムを最初にブートするデバイスを強調表示します。たとえば、サーバシステムを最初にCD-ROMからブートする場合は、[CD-ROM Drive] を選択します。

---

**メモ：** [Boot] ポップアップメニューの選択項目の1つに [Enter Setup] があります。このオプションを選択すると、BIOSセットアップに進めます。

---

4. **Enter**を押します。
5. ブートアッププロセスが続行されます。このプロセスが終了すると、システムプロンプトが表示されます。

## ソフトウェアに関する問題

ソフトウェアやユーティリティの設定方法の詳細については、『SGI 1450 サーバユーザーズガイド』を参照してください。

